

町では、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」の取り組みを進めています。町や地域が行うこの取り組みについて、毎月お伝えしていきます。

【歴史まちづくり推進室 ☎ 585-2967】  
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



### 大木戸歴史むらづくりの会×あつかし歴史館 遊びと学びのミュージアム ひなまつり ～桃の節句を祝う～

3月3日、あつかし歴史館で『ひなまつり～桃の節句を祝う～』を開催しました。

地域みなさんからお借りした七段飾りのお雛様をはじめ、手作りのつるし雛や雛人形が館内を彩りました。



▲玄関で来館者を迎える手作りの雛人形

大正琴の演奏会では、琴伝流『国見ピーチ』のみなさんが春にまつわる曲の演奏を披露。演奏会後には、大正琴の体験も行われ、来場者は美しい音色を堪能していました。



▲春にまつわる歌を大正琴の演奏に合わせてみんなで歌います

昼には、大木戸ふれあいセンターで地区のお母さんたちが腕を振るった「ちらし寿司」の販売が行われ、地域との交流を深めながら、ひなまつりならではの舌鼓を打ちました。



▲地区のお母さんたちが作ったちらし寿司は絶品!

午後は、『国見の民話かるた』でかるた大会を開催。子どもも大人も本気で取り合い、国見の民話を学びながら、白熱した戦いを繰り広げました。



▲子ども大人もみんなで国見の民話かるた大会!

かるた大会とともに盛り上がりを見せたのが、凧作り＆凧揚げ体験。最近では遊ぶ機会が減った凧揚げですが、子どもたちは思い思いに描いた凧を空に揚げ、楽しんでいました。



▲自分で絵を描いて世界で一つだけのオリジナル凧を作ります!

今回のイベントには約170人が来場し、そのうち約3分の1が町外からの来場者でした。町内外を問わずより多くの人に、年中行事や昔ながらの遊び・文化に触れてもらう中で、国見町の魅力も伝えていきます。



▲校庭での凧揚げに大満足!

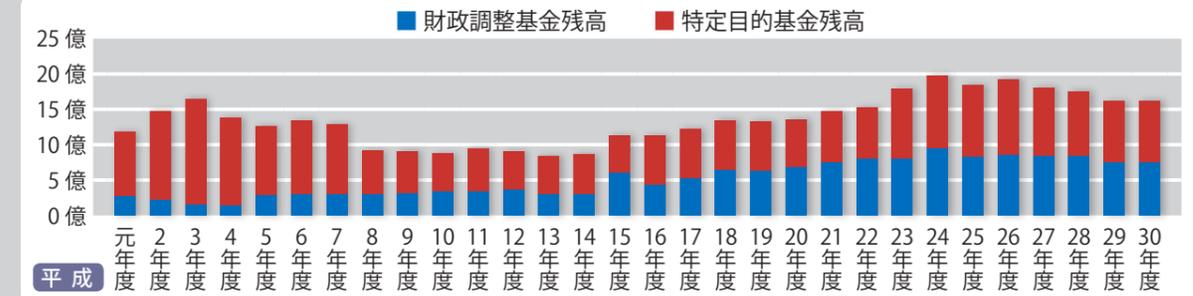
### 県北地方のローカル厄払い ～厄年と凧と紙風船～



ひなまつりイベントの企画会議中、大木戸歴史むらづくりの会の方に「昔は地区の厄年の人が、男の子には凧を、女の子には紙風船を配る風習があったんだよ」と教えていただきました。この風習は、福島県の県北地域特有のもので、凧や紙風船を配るのは「厄を飛ばす」という願いが込められています。

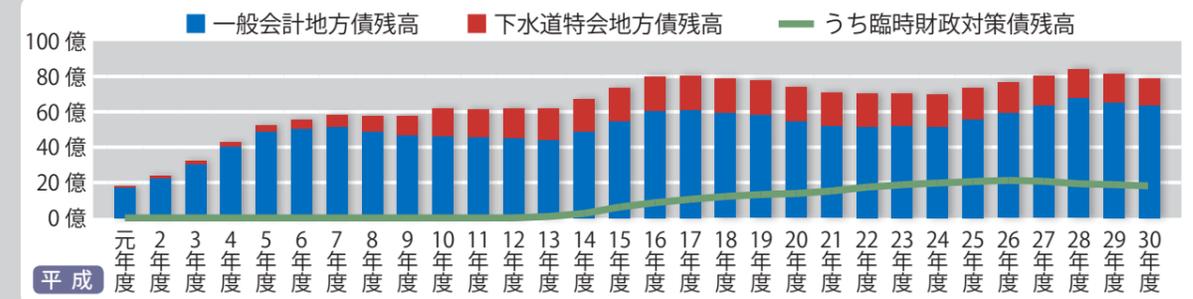
現在は、「厄を洗い流す」という意味で、厄年の人が親類や知人に食器用洗剤を配る風習に変化し受け継がれている地域が多く、厄払い専用の熨斗を置く店もありますが、これも他の地域にはない県北地方の珍しい習わしの一つです。

### 基金（貯金）残高の推移



●震災以降は、さまざまな復旧復興事業に充当するため、基金が減少傾向でしたが、平成30年度末の基金残高は、前年度よりも約1,000万円増加しています。

### 地方債（借金）残高の推移



●平成28年度末がピークで、今後は減少傾向になります。  
●地方債残高の60%から70%が国から普通交付税として後年度に交付されます。

### 各特別会計の当初予算

会計名	平成31年度	平成30年度	増減率
大木戸財産区特別会計	16万円	16万円	+ 0.6%
入山財産区特別会計	19万円	20万円	△ 3.0%
公共下水道事業特別会計	2億3,166万円	2億3,106万円	+ 0.3%
後期高齢者医療特別会計	1億2,470万円	1億2,897万円	△ 3.3%
国民健康保険特別会計	10億6,801万円	11億2,873万円	△ 5.4%
介護保険特別会計	13億2,627万円	12億5,811万円	+ 5.4%
土地開発事業特別会計	4,630万円	5,510万円	△ 16.0%
湧水対策施設特別会計	5,476万円	1,153万円	+ 374.8%

### 水道事業会計の当初予算

項目	平成31年度	増減率	項目	平成31年度	増減率
収益的収入	2億6,811万円	△ 2.9%	資本的収入	440万円	△ 94.0%
収益的支出	2億6,368万円	△ 4.1%	資本的支出	2億2,387万円	+ 31.9%